

## ジンコソーラー2022年上半期決算発表、太陽光パネル出荷量

### 18.21GWで首位

2022年8月26日、ジンコソーラーは2022年上半期決算情報を発表した。決算によると、ジンコソーラーの2022年上半期売上高が334.07億元で、前年同期比112.44%増加した。株主に帰属する純利益は9.05億元で、前年同期比60.14%増加した。

2022年上半期の期間中、太陽光発電製品の出荷量は合計18.92GWで、前年同期比79%増加した。そのうち、太陽光パネルの出荷量が約18.21GWで、世界首位の座を維持すると同時に新たな記録も塗り替えた。出荷地域別からみると、最大市場はヨーロッパで、その後は中国やアジア新興国地域である。ヨーロッパ市場においては、ジンコソーラーN型Tiger Neoモジュールシリーズが大きく注目されている一方で、中国市場においては、メガソーラー事業の推進及び分散型太陽光発電市場の開拓に取り組んでいる。そして、同社はラテンアメリカ、インドなどの市場での展開も加速している。

2022年6月末現在の同社の年間生産能力はモノウエハ43.0GW、太陽電池セル42.0GW、太陽電池モジュール50.0GW。第2四半期には、大型容量の割合が引き続き増加し、統合された構造がさらに改善された。N型時代の先駆者として、ジンコソーラーはN型TOPCon技術革新と生産能力における著しい競争優位性を持っている。ジンコソーラーN型Tiger Neoモジュールシリーズの電池の量産効率が24.8%以上に達し、業界をリードしている。また、同社はIBC、タンデム、ペロブスカイトなどの次世代技術の研究も進めている。

最近、合肥で8GWのN型セル容量を追加して生産開始、海寧で11GWのN型セル容量を備えた別の生産プロジェクトの建設を開始した。同社は、2022年末までに、モノウエハで年産60.0GW、太陽電池セル55.0GW、太陽電池モジュール65.0GWへの拡大を計画している。2022年通年の総出荷量は35.0~40.0GWを予測している。

ジンコソーラーは、「将来、ジンコソーラーは引き続き生産能力の一体化に力を入れ、その優位性を最大に発揮し、サプライチェーンの各段階の技術革新を実現することにより、生産コストの縮減を目指します。そして、N型製品の生産能力向上及び出荷量増加向けの取組も進めていきます。」と表示した。